

## 手足口病

①口の中や、手足などに水疱性の発疹が出る、ウイルスの感染によって起こる夏流行する急性感染症です。

②感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに2～3mmの水疱性発疹が出ます。

③発熱は約3分の1にみられますが、あまり高くないことがほとんどであり、高熱が続くことは通常はありません。ほとんどの発病者は、数日間のうちに治る病気です。しかし、まれですが、髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症のほか、心筋炎、神経原性肺水腫、急性弛緩性麻痺など、さまざまな症状が出る場合があります。

④手足口病に特效薬はなく、特別な治療方法はありません。また、基本的には軽い症状の病気ですから、経過観察を含め、症状に応じた治療となります。

⑤まれに髄膜炎や脳炎などが起こる場合がありますから、経過観察をしっかりと行い、高熱が2日以上続く、嘔吐する、頭を痛がる、水分が取れずにおしっこがでない、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

⑥感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染（便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染することです）が知られています。特に、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。家に帰ってきたら、手洗い・うがいを徹底しましょう。

⑦目黒区の保育園では診断がついて、発熱や口の中の水疱・潰瘍の影響がなく、通常の食事がとれるようになるまで登園を控えることになっています。